

## 職業・家庭科(家庭) 実態調査の実施にあたって

### I 実施方法

1. それぞれの児童生徒の段階を、「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活・環境」、の3つの領域に沿って観点別に把握する。
2. 職業・家庭科(家庭)の実態調査においては、各領域の単元中や単元終了後、年度末に評価する。
3. 「知識及び技能」については、それぞれの段階の指導項目にしたがい、○、△、無印で評価する。「思考力、判断力、表現力等」については、それぞれの段階の指導事項の調査項目にしたがい、○、△、無印を記入する。
4. ○は調査項目を達成しており、いつでも、一人でできるものにつける。△はどんな条件だとできるのかを備考欄に端的に記入する。
5. △や無印の部分について、今後、授業づくりや指導計画作成の際に、指導事項の要素を反映できるように検討する。

### II 留意点

職業・家庭科(家庭) 実態調査表を使用するにあたり、以下の点に留意をする。

- 知識及び技能は、習得状況として判断する。文末表現は「～できる」「～分かる」とする。思考力、判断力、表現力等は、子どもの姿として判断しているため、文末表現は「～している」とする。
- 現状、指導要領解説等から転記し、調査項目を作成しているため、分かりづらい部分もあるが、今後、より具体的な子どもの姿として、表すことができるように調査項目を改定していく。
- 調査項目が設定できていない段階や領域は、今後、加筆を行っていく。
- 活動例については、実態調査を基に授業や活動を行った際に、今後の参考として加筆していく。

A 家族・家庭生活

段階	段階の目標	知識及び技能		判定	段階の目標	思考力、判断力、表現力等		判定	活動例		
		指導事項	調査項目			指導事項	調査項目				
中1段階	家庭の中の自分の役割に付き、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 自分の成長と家族 (7)	「服をハンガーに掛けられるようになった」や「自分の気持ちを相手に伝えられるようになった」などと具体的に自分の成長が分かる。		ア 自分の成長と家族 (7)	家族とのやりとりを通して、家族を大切にすることを育み、よりよい関わり方について気付かせ、それを他者に伝えること。	家族を大切にしようと言葉などで表現している。		○家族の役割について調べる学習 ○自分に合った文化的な余暇活動(読書、絵画制作・鑑賞、楽器演奏・音楽鑑賞、手芸、園芸、飼育、テレビ観戦)を見つける活動 ○自分に合った体育的な余暇活動(道具・器具を使った遊び、運動・スポーツなど)を見つける活動 ○余暇活動の計画を立てる ○幼児と遊ぶ ○幼児に読み聞かせをする		
			自分にもできることを喜び、「もっとやってみよう」という意欲をもつことができる。				家族に対する感謝の気持ちを伝えている。				
			家庭には衣食住や家族に関する仕事があることが分かる。								
			家族が協力し分担する必要があることが分かる。								
			生活時間の有効な使い方が分かる。								
		イ 家庭生活と役割 (7)	家庭生活の中で自分のできる役割が分かる。		イ 家庭生活と役割 (7)	家庭生活に必要なことや自分の果たす役割に付き、それを他者に伝えること。		家庭生活の中の自分の役割について自分なりに工夫しようとしている。			
			家庭における役割や地域との関わりについて関心をもち、知る。			自分でできることを家族に提案している。					
			家庭での食事や睡眠が健康に大きく影響していることが分かる。					一緒に暮らす家族等との時間を大切に、共に時間を共有しようとしている。			
			生活習慣や生活リズムが健康に大きく影響していることが分かる。			ウ 家庭生活における余暇 (7)	望ましい生活環境や健康及び様々な余暇の過ごし方について気付かせ、工夫すること。	余暇を一人で楽しむだけでなく他者と共有する大切な時間でもあることに付き、人とかわらうとしている。			
			余暇の過ごし方等の日常生活が健康に大きく影響していることが分かる。								
			幼児は食事、排泄、着脱衣、清潔など生活の様々な場面で他者の支えが必要が分かる。					エ 幼児の生活と家族 (7)		幼児への適切な関わり方について気付かせ、それを他者に伝えること。	幼児と関わる際の言葉のかけ方や働きかけの仕方に付き、伝え方を工夫している。
幼児の特徴や過ごし方について知る。		相手思いやりながら優しく関わる必要があることに付き、関わり方を工夫している。									
幼児は、遊ぶ時間や睡眠の時間が多いなど生活の特徴が分かる。											
中2段階	家族や自分の役割について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 自分の成長と家族 (7)	家族それぞれの役割や立場が分かる。		ア 自分の成長と家族 (7)	家族とのやりとりを通して、家族を大切にすることを育み、よりよい関わり方について考え、表現すること。	よりよい家庭生活とはどのようなものか考え、他者に伝えている。		○家庭生活についての調べ学習 ○教師や友だち、家族との対話 ○学校の周りや商店街等で働く人や近所に暮らす人などの交流活動		
			家族一人一人が家庭内の仕事や役割を果たしていることが分かる。				家族を大切にしようという気持ちをもって、よりよい関わり方をしようとしている。				
			家庭生活が思いやりや愛情によって支えられながら営まれていることが分かる。								
			家族にはそれぞれの役割があることが分かる。				イ 家庭生活と役割 (7)	家庭生活に必要なことに関して、家族の一員として、自分の果たす役割を考え、表現すること。		家族が相互に支え合っていることに付き、家族に感謝の気持ちを伝えている。	
			家庭における役割や地域との関わりについて調べて、理解すること。							家族の一員として家庭生活の中で担う役割を考え、実際に果たしている。	
			健康管理や余暇の過ごし方について理解し、実践すること。							ウ 家庭生活における余暇 (7)	望ましい生活環境や健康及び自分に合った余暇の過ごし方について考え、表現すること。
		健康管理や余暇の過ごし方について理解し、実践すること。		規則正しく健康に気を付けて生活しよう。健康管理について家庭における自分の生活を見直している。							
		地域の人々との関わりの中で地域の特色や文化、産業などのよさが分かる。		エ 家族や地域の関わり (7)	家族との触れ合いや地域生活に関心をもち、家族や地域の人々と地域活動への関わりについて気付かせ、表現すること。	地域の人々との関わりを大切にすることを表している。					
		地域生活や地域の活動について調べて、理解すること。				地域に積極的に関わろうとしている。					

段階	知識及び技能			
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定
高1段階	家族・家庭の機能について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 自分の成長と家族 (7)	自分の成長や生活が、家族や家庭生活に支えられてきたことが分かる。	
			健康、快適で安全な家庭生活は、家庭の仕事や協力して行うなど、家族の協力によって営まれていることが分かる。	
			家族が家庭生活の中でそれぞれに応じた仕事を分担しており、その仕事をやりとげることによって互いに支え合えることが分かる。	
			自らも家庭生活の中で役割を果たす必要があること分かる。	
	イ 家庭生活での役割と地域との関わり (7)	快適で安全な生活のために、地域の人々との関わりが必要であることが分かる		
		幼児や高齢者など様々な人々と共に協力して生活することが大切であることが分かる。		
		家庭生活において、地域の人々との協力が大切であることに気付くこと。		
	ウ 家庭生活における健康管理 (7)	食事、睡眠、生活習慣、生活リズム等の日常生活が健康に影響を及ぼすことが分かる。		
		健康管理や余暇の有効な過ごし方について理解し、実践すること。		
		スポーツや音楽鑑賞、ペットの飼育、植物の栽培などを行うことで、生活を楽しむことができること分かる。		
	エ 乳幼児や高齢者の生活 (7)	遊びや食事などの活動の様子や着衣から、乳幼児の生活の特徴が分かる。		
乳幼児や高齢者などの生活の特徴が分かり、乳幼児や高齢者などの関わり方について気付くこと。				
高齢者の食事や介護、服薬、睡眠などの様子から、高齢者の生活の特徴が分かる。				
段階の目標	指導事項	調査項目	判定	
高2段階	家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 自分の成長と家族 (7)	家庭生活を成り立たせるために、家族の一員として自身の役割を果たす必要があることを理解することができる。	
			自分の成長と家族や家庭生活の関わりが分かり、家庭生活が家族の協力によって営まれていることを理解すること。	
	イ 地域と生活の間での関わり (7)	1段階の内容を踏まえ、地域の人々や協力して生活していくことが大切であると理解することができる。		
		家庭生活において、地域の人々との協力が大切であることを理解すること。		
	ウ 健康管理と余暇 (7)	1段階の内容を踏まえ、自分の生活について振り返り、規則正しく生活することについて理解を深め、実践することができる。		
		健康管理や余暇の有効な過ごし方について理解を深め、実践すること。		
		個人が自由に使える時間や休日や自分の趣味に有効に活用することや、家族などと有意義に余暇を過ごすことについて理解を深め、実践することができる。		
	エ 乳幼児や高齢者の生活 (7)	1段階の内容を踏まえ、乳幼児の生活の特徴について理解することができる。		
乳幼児や高齢者などの生活の特徴が分かり、乳幼児や高齢者などの関わり方について理解すること。				
1段階の内容を踏まえ、高齢者の生活の特徴について理解することができる。				

段階	思考力、判断力、表現力等				
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定	
高1段階	家族・家庭の機能について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 自分の成長と家族 (7)	家族とのよりよい関わり方について考え、表現すること。	家族とのよりよい関わり方ができるように家族の思いや考えを聞いたり、自分の考えを伝えたりしている。	
				家族の生活時間を見直し、触れ合いや団らの時間を生み出す方法について表現している。	
				地域で共に生活している幼児や高齢者などの人との関わりについて問題を見いだしている。	
				地域の人々との関係をよりよいものにするために、自分が協力できることについて考え表現している。	
	イ 家庭生活での役割と地域との関わり (7)	家族や地域における生活の中からの問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	家族と地域の人々とのよりよい関わり方について考え、表現すること。	家族との触れ合いや団らんに問題を見いだしている。	
				家族の生活時間を見直し、触れ合いや団らの時間を生み出す方法について表現している。	
				地域で共に生活している幼児や高齢者などの人との関わりについて問題を見いだしている。	
				地域の人々との関係をよりよいものにするために、自分が協力できることについて考え表現している。	
	ウ 家庭生活における健康管理 (7)	健康管理や余暇の有効な過ごし方について考え、表現すること。	健康に生活できるように自身の健康管理の仕方について見直し、改善していたり、他者に伝えたりしている。	健康な生活ができるように自身の余暇の有効な過ごし方について見直し、改善したり、他者に伝えたりしている。	
	エ 乳幼児や高齢者の生活 (7)	乳幼児や高齢者などのよりよい関わり方について考え、表現すること。	乳幼児の生活の特徴から、通常とは異なる配慮が必要であるとわかり、適切に接しようとしている。	高齢者の生活の特徴から、通常とは異なる配慮が必要であるとわかり、適切に接しようとしている。	
段階の目標	指導事項	調査項目	判定		
高2段階	家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 自分の成長と家族 (7)	家族とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。	家族の団らんに加わり、家族の心情を受け止めることについて考え、工夫している。	
	イ 地域と生活の間での関わり (7)	家族や地域における生活の中からの問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	家族と地域の人々とのよりよい関わり方について考え、工夫すること。	1段階で学んだことを踏まえ、地域の人々とのよりよい関わり方について考え、工夫している。	
	ウ 健康管理と余暇 (7)	健康管理や余暇の有効な過ごし方について考え、工夫すること。	各人が自由に過ごすだけでなく、食事や団らんなど家族と共に過ごす時間、家事を行う時間などもあることを考え、有効に時間を使うように工夫している。		
	エ 乳幼児や高齢者の生活 (7)	乳幼児や高齢者などのよりよい関わり方について考え、工夫すること。	乳幼児の生活の特徴から、通常とは異なる配慮が必要であると理解し、接し方を工夫している。	高齢者の生活の特徴から、通常とは異なる配慮が必要であると理解し、接し方を工夫している。	

活動例
<p>○自分がこれまで成長してきたことを振り返る。</p> <p>○生徒によって身近な生活の中から地域で生活する幼児や高齢者について考える学習活動</p>
<p>○1段階の学習をより深められるような、調べ学習や話し合いの学習活動</p>

B 衣食住の生活

段階	衣食住の生活		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		活動例	
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定	段階の目標	指導事項		調査項目
中1段階	ア 食事の役割	(7) 健康な生活と食事の役割について知る。	健康な生活と関連付け、食事は、健康を保ち、体の成長や活動のもとになることが分かる。	イ (-)	適切な量の食事を楽しくとることの大切さに気づき、それらを他者に伝えること。	必要な栄養や食べる量に気を付けて、食事の仕方を調整している。	イ (-)	○短時間でできる比較的単純な工程の調理 ○電子レンジやホットプレートを使った調理
			一緒に食事をすることで、人と楽しく関わったり、和やかな気持ちになったりすることが分かる。			気持ちや心の安定のために、親しい人と一緒に食事をしようとしている。		
			健康を維持する側面から、必要な栄養や食事を適切にとることが分かる。			食事の時間を楽しみにしたり、美味しいことを喜び、伝え合ったりしている。		
	イ 調理の基礎	(7) 簡単な調理の仕方や手順について知り、できるようにすること。	短時間で比較的単純な工程の調理をすることができる。	イ (-)	簡単な調理計画について考えること。	簡単な調理に必要な道具を手順表をもとにそろえている。	イ (-)	○簡単なレシピを見ながら次の工程にすすめている。
			一般の家庭で身近に使用できる加熱調理器具などを使うことができる。					
	ウ 衣服の着用と手入れ	(7) 場面に応じた日常着の着方や手入れの仕方などについて知り、実践しようとする。	運動や作業、給食など活動内容に合わせた服装が分かる。	ウ (-)	日常着の着方や手入れの仕方に気づき、工夫すること。	活動の切り替え時に、必要に応じて自分から着替えをしている。	ウ (-)	○気温に応じて、上着を着たり、脱いだりしている。
			季節や気温に応じた衣服の選択ができる。			汚れた物を自分で洗濯かごに入れていく。		
			汚れた衣服の始末や洗濯物の整理など基本的な衣服の取り扱いが分かる。					
エ 快適な住まい方	(7) 住まいの主な働きや、整理・整頓や清掃の仕方について知り、実践しようとする。	教室や家庭内にある窓や換気扇、照明器具や日よけ、カーテンなどの役割が分かる。	エ (-)	季節の変化に合わせた住まい方、整理・整頓や清掃の仕方に気づき、工夫すること。	より快適で健康に過ごすために、季節に応じて、窓を開けたり閉めたりしている。	エ (-)	○より快適で健康に過ごすために、定期的に室内の整理・整頓や清掃を行っている。	
		室内の整理・整頓や清掃の仕方などが分かる。						
中2段階	ア 食事の役割	(7) 健康な生活と食事の役割や日常の食事の大切さを理解すること。	自分の食生活に関心をもち、健康によい食事のとり方が分かる。	ア (-)	日常の食事の大切さや規則正しい食事の必要性を考え、表現すること。	栄養のバランスや食品について考えたことを伝えている。	ア (-)	○好き嫌いなどをせずに食べようとすることなど自ら取り組んでいく学習活動 ○1食分の献立を立てる活動 ○主食や副食、汁物を組み合わせる活動 ○旬の食材、地域の伝統的な料理、和食と洋食、他国の馴染みのある料理や食べ物を扱った学習活動 ○避難訓練と関連した対応の仕方に学習
			1日の生活の中で3食を規則正しくとることの重要性が分かる。			栄養バランスや食事について、改善や解決方法などを自分の実践として発表している。		
			栄養や食品をバランスよくとることの重要性が分かる。					
	イ 栄養を考えた食事	(7) 身体に必要な栄養について関心をもち、理解し、実践すること。	バランスのとれた食品の栄養を組み合わせで一食を考えることができる。	イ (-)	バランスのとれた食事について気づき、献立などを工夫すること。	バランスのとれた食事にするために、一食分の食事を栄養素で見直している。	イ (-)	
			食品に含まれる栄養素の特徴により三つのグループに分けられることが分かる。			バランスのとれた食事にするために、一食分の食事を主食と副食、汁物の組み合わせや、彩り、味のバランス等で見直している。		
			日常の食事に使われる食品をグループに分類することができる。					
	ウ 調理の基礎	(7) 調理に必要な材料の分量や手順などについて理解し、適切にできること。	調理に必要な材料の分量を正しく用意することができる。	ウ (-)	調理計画に沿って、調理の手順や仕方を工夫すること。	必要な材料や調理器具、調理の手順を考えて、準備から後片付けまで見直しをもち、時間配分を考えている。	ウ (-)	
			調理計画に沿って手順よく活動することができる。			必要な材料や調理器具、調理の手順を考えて、調理に適した調理用具を準備している。		
			ガスや火を安全に扱うことができる。					
			まな板や布巾を正しく取り扱うことができる。					
エ 衣服の着用と手入れ	(7) 日常着の使い分けや手入れの仕方などについて理解し、実践すること。	地域での学習や実習、家族との外出、余暇など、目的や時期、場所などを考えた衣服の着方や身だしなみを整えることができる。	エ (-)	日常着の快適な着方や手入れの仕方を考え、工夫すること。	気温や状況に合わせて衣服を自分から脱ぎ着している。	エ (-)		
		行事等によって衣服や着方に決まりがあることが分かる。			洗濯機や乾燥機などを使用して衣服の洗濯や乾燥を行っている。			
		和服は日本の伝統的な衣服で冠婚葬祭や儀式等で着用すること、地域の祭りなどで浴衣を着用することが分かる。						
オ 快適で安全な住まい方	(7) 快適な住まい方、安全について理解し、実践すること。	安全に暮らすためにガスや火器、刃物などの危険物について注意することができる。	オ (-)	季節の変化に合わせた快適な住まい方に気づき、工夫すること。	季節の変化に合わせて暖房器具等を安全に扱っている。	オ (-)		
		落下物や階段での事故防止などに整理・整頓が大切なことが分かる。			寝る前には防犯のために窓を閉めている。			
		扉や窓の施錠や鍵の管理の仕方が分かる。						
		セールス等の訪問者への基本的な対応の仕方が分かる。						
		地震や火事など緊急時に身を守ることが分かる。						
		災害時の避難場所や連絡先が分かる。						

段階	知識及び技能				思考力、判断力、表現力等				活動例		
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定	段階の目標	指導事項	調査項目	判定			
高1段階	家族・家庭の機能について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を深めるとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 食事の役割	(7) 生活の中で食事が果たす役割について理解すること。	食事を共にすることが人間関係を深めることが分かる。 食事を共にすることが、偏食を改善し、栄養バランスの良い食事につながることを理解することができる。 食事が文化を伝える役割があることが分かる。 食事を共にするためには、楽しく食べるための工夫が必要であることが分かる。		家庭や地域における生活の中からの問題を発見し、課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。	ア 食事の役割	(イ) 健康に良い食習慣について考え、工夫すること。	欠食や偏食を避け、栄養バランスの良い食事をとることや1日3食を規則正しくすることを踏まえ、自分の食習慣について考え、工夫している。 食事に加えて運動や休養が必要であることや、適度な運動量と栄養量の確保が必要であることを踏まえ、自分の食習慣について考え、工夫している。 健康の視点からより良い食習慣について考え、工夫している。		○生鮮食品を用いた調理実習 ○食品の鮮度や品質を見分ける活動 ○ゴミ処理まで含めた調理実習 ○煮る、焼く、蒸すなどの調理方法を扱った調理実習
		イ 日常食の調理	(7) 日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択、食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理、材料に適した加熱調理の仕方について知り、基礎的な日常食の調理ができること。	目的、栄養、価格、調理の効率、環境への影響などの諸条件を考えて食品を選択することが大切であると分かる。 生鮮食品について、魚、肉、野菜などの鮮度や品質の見分け方が分かる。 加工食品について、その原材料や期限、保存方法などの表示を理解することで、用途に応じた選択ができることが分かる。 食品の適切な取り扱い方法が分かる。(食中毒予防のために、安全で衛生的に取り扱う必要があること、保存方法と保存期間の関係、ゴミの適切な処理方法) 調理用具の正しい使い方や安全な取り扱い方が分かる。 ゆでる、いためる、煮る、焼く、蒸す等の調理について、火加減の調節が大切であることや、加熱器具を適切に操作できる。 煮るについて、材料の種類や切り方によって煮方が異なること、調味の仕方が汁の量によって異なることなどが分かる。 焼くについて、直火焼きと、フライパンやオーブンをを用いた間接焼きとがあることや、それぞれの特徴が分かる。 蒸すについて、水蒸気で加熱する蒸し調理の特徴が分かる。 魚や肉が加熱することで衛生的で安全になること、中心まで火を通す方法が分かる。 魚や肉の部位によって調理方法が異なることが分かる。 魚や肉の主成分であるたんぱく質が、加熱によって変性・凝固し、硬さ、色、味、においが変化することや、調理の目的に応じた加熱方法が必要であることが分かる。 野菜について、生食できることや食塩をふると水分が出てしなやかになること、加熱すると組織が軟らかくなることなどが分かる。 野菜の切り口が変色することや緑黄色野菜は加熱しすぎると色が悪くなることに気付き、それを防止する方法が分かる。 青菜などは、加熱することでかさが減り、食べやすくなることなどが分かる。 卵やイモ類などの食品の特徴や調理方法が分かる。 衛生的な観点から、食品に応じた適切な洗い方が分かること。 安全な包丁の使い方が分かり、使うことができる。 食べられない部分を切除し、食べやすさ、加熱しやすさ、調味料のしみ込みやすさ、見た目の美しさなどを考えて切ることができる。 食塩、みそ、しょうゆ、さとう、食酢、油脂などを用いて調理の目的に合った調味ができることが分かる。 計量器を適切に使用することができる。 料理の外観がおいしさに影響を与えることや、料理の様式に応じた盛り付け・配膳の方法があることが分かる。			イ 日常食の調理	(イ) 基礎的な日常食の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、表現すること。	基礎的な日常食の課題を解決するために、知識及び技能を活用し、健康・安全などの視点から、食品の選択の仕方を考えている。 基礎的な日常食の課題を解決するために、知識及び技能を活用し、健康・安全などの視点から、調理の仕方を考えている。 基礎的な日常食の課題を解決するために、知識及び技能を活用し、健康・安全などの視点から、調理計画を考えている。		

高1段階	家族・家庭の機能について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ウ 衣服の選択	(ア)	<p>所属や職業を表したり、行事等によって衣服の着方に決まりがあったり等、社会における衣服の機能が分かる。</p> <p>日本の伝統的な衣服について、冠婚葬祭や儀式で和服を着用したり、地域の祭りや浴衣を着用したりすることが分かる。</p> <p>和服と洋服の着方の違いや、和服の着装の仕方が分かる。</p> <p>目的に応じた着用について、学校生活や行事、訪問などの目的に応じた、場にあわせた着方が分かる。</p> <p>個性を生かす着用について、衣服の種類や組み合わせ、襟の形やゆとり、色などによって人に与える印象が変わることが分かる。</p> <p>衣服の適切な選択について、組成表示、取り扱い表示、サイズ表示の意味が分かる。</p> <p>衣服を購入する際、縫製の良否、手入れの仕方、手持ちの衣服との組み合わせ、価格等に留意し、目的に応じて選択する必要があることが分かる。</p> <p>既製服のサイズは身体部位の寸法で示されることがや、計測の仕方が分かる。</p> <p>衣服の入手について、他の人から譲り受けたり、リフォームしたりする方法があると分かる。</p>	ウ 衣服の選択	(イ)	<p>衣服の選択についての課題を解決するために、知識・技能を活用し、健康・快適などの視点から衣服の選択について考え、工夫しようとしている。</p> <p>衣服の選択について考え、工夫すること。</p>	<p>○学校行事に応じた衣服の着用の経験</p> <p>○就業体験で衣服の着る活動</p> <p>○縫製作業や縫製を使った小物づくり</p> <p>○住空間の和式と洋式との比較を行う学習活動</p> <p>○住居が心身の安らぎと健康を維持する働きがあることを学ぶ学習活動</p>
		エ 布を用いた製作	(ア)	<p>手縫いについて、なみ縫い、返し縫い、かがり縫いの特徴が分かる。</p> <p>なみ縫い、返し縫い、かがり縫いについて、縫う部分や目的に応じて選択することができる。</p> <p>なみ縫い、返し縫い、かがり縫いができる。</p> <p>ミシン縫いについて、丈夫で早く縫えるという特徴が分かる。</p> <p>ミシンの使い方が分かり、直線縫いができる。</p>	エ 布を用いた製作	(イ)	<p>目的に応じた縫い方について考え、工夫すること。</p>	
		オ 住居の基本的な機能と快適で安全な住まい方	(ア)	<p>生活の重視する点と、住空間の使い方の関係が分かる。</p> <p>家族が共に暮らすために、住生活に対する思いや願いを互いに尊重し、調整して住空間を整える必要があると分かる。</p> <p>座敷の住まい方(畳、座卓、座布団)が現代の住居に受け継がれていることや、現代の住居には、和式と洋式を組み合わせた住空間の工夫があることが分かる。</p> <p>我が国の伝統的な住宅や住まい方に見られる様々な知恵が分かる。</p> <p>和式と洋式について、布団とベッドによる就寝の形態や、押し入れとクローゼットによる収納の形態の違いが分かる。</p> <p>住居は家族の安定した居場所であることが分かる。</p> <p>住居は、主として心身の安らぎと健康を維持する働き、子供が育つ基盤としての働きなどがあることが分かる。</p> <p>住居には、共同生活の空間、個人生活の空間などが必要であることが分かる。</p>	オ 住居の基本的な機能と快適で安全な住まい方	(イ)	<p>安全な住まい方についての課題を解決するために、知識を活用し、安全などの視点から住空間の整え方について考えている。</p> <p>家族の安全や快適さを考えた住空間について考え、表現すること。</p>	

段階	段階の目標	指導事項	調査項目	判定	段階の目標	指導事項	調査項目	判定	活動例
高2段階	家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を回るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 必要な栄養を満たす食事	<p>1日に必要な食物の量や色々な食品を組み合わせて食べることが必要であることが分かる。</p> <p>炭水化物と脂質は主として体内で燃焼してエネルギーになることが分かる。</p> <p>たんぱく質は、主として筋肉、血液などの体を構成する成分となるだけでなく、エネルギー源としても利用されることが分かる。</p> <p>無機質には、カルシウムや鉄などがあり、カルシウムは骨や歯の成分、鉄は血液の成分となるなどの働きと、体の調子を整える働きがあることが分かる。</p> <p>ビタミンには、A、B1、B2、C、Dなどの種類があり、いずれも体の調子を整える働きがあることが分かる。</p> <p>食物繊維は、消化されないが、腸の調子を整え、健康の保持のために必要であることが分かる。</p> <p>人の体の約60%は水分で構成されており、水は五大栄養素には含まれないが、生命維持のために必要な成分であることが分かる。</p> <p>食品に含まれる栄養素の種類と量など栄養的特質によって、食品は食品群に分類されることが分かる。</p> <p>食品に含まれる栄養素の種類と量については、日本食品標準成分表に示されていることが分かる。</p>		ア 必要な栄養を満たす食事	一日分の献立について考え、工夫すること。	<p>必要な栄養を満たす食事についての課題を解決するために、基礎的・基本的な知識を活用し、一日分の献立について健康などの視点から考え、工夫している。</p>		<p>○栄養素の働きを扱った学習活動</p> <p>○体内における水の働きについて扱った学習活動</p> <p>○日本食品標準成分表を使った学習活動</p> <p>○1日分の献立を立てる学習活動</p> <p>○綿、毛、ポリエステルなどを選択したり、アイロンがけをししたりする活動</p> <p>○ミシンを使った補修の学習活動</p> <p>○ミシンを使った小物や袋物の製作</p>
		イ 日常食の調理	<p>日常生活と関連付け、用途に応じた食品の選択、食品や調理用具等の安全と衛生に留意した管理、材料に適した加熱調理の仕方について理解し、基礎的な日常食の調理が適切にできること。</p> <p>1段階の内容を踏まえ、食品の選択、食品や調理器具等の管理、加熱調理の仕方について理解することができる。</p> <p>1段階の内容を踏まえ、食品や調理器具について理解することができる。</p> <p>1段階の内容を踏まえ、加熱調理の仕方について理解することができる。</p> <p>基礎的な日常食の調理が適切にできる。</p>		イ 日常食の調理	基礎的な日常食の調理について、食品の選択や調理の仕方、調理計画を考え、工夫すること。	<p>基礎的な日常食の調理を行う上で、食品の選択の視点から考え、調理計画等を工夫している。</p> <p>基礎的な日常食の調理を行う上で、食品や調理用具等の管理の視点から考え、調理計画等を工夫している。</p> <p>基礎的な日常食の調理を行う上で、加熱調理の仕方の視点から考え、調理計画等を工夫している。</p>		
		ウ 衣服の手入れ	<p>綿、毛、ポリエステルなどの丈夫さ、防しむ性、アイロンかけの効果、洗濯による収縮性など、基本的な性質を理解することができる。</p> <p>綿、毛、ポリエステルなどの違いに応じた手入れの仕方を理解することができる。</p> <p>素材の性質に応じた日常着の洗濯などができる。</p> <p>洗剤の働きと、衣服の材料に応じた洗剤の種類が分かる。</p> <p>洗剤を適切に選択し、使用することができる。</p> <p>衣服の材料や汚れ方に応じた選択の仕方について理解することができる。</p> <p>水性や油性などの汚れの性質、洗剤の働き、電気洗濯機の水流の強弱などが汚れ落ちに関わっていることに気付くことができる。</p> <p>布の収縮や型くずれに配慮した洗い方や干し方が分かる。(綿と毛、綿素材の織物と編物等)</p> <p>電気洗濯機を用いた洗濯の方法と特徴を理解することができる。</p> <p>電気洗濯機を用いた洗濯ができる。</p> <p>衣服によっては専門業者に依頼する必要があることに気付くことができる。</p> <p>手入れした服を適切に保管する必要があることに気付くことができる。</p> <p>日常着の手入れについて、衣服を長持ちさせるために、その目的と布地に適した手入れや補修の方法があると理解することができる。</p> <p>まつり縫いによる補上げができる。</p> <p>ミシン縫いによるほころび直しができる。</p> <p>スナップ付けができる。</p> <p>日常の手入れとして、ブラシかけなどが有効であることを理解し、適切に行うことができる。</p>		ウ 衣服の手入れ	衣服の材料や状態に応じた日常着の手入れについて考え、工夫すること。	<p>衣服の手入れについての課題を解決するために、知識及び技能を活用し、健康・快適などの視点から衣服の手入れについて考え、工夫している。</p>		
	エ 布を用いた製作	<p>製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解すること。</p> <p>型紙の見方が分かり、手順通りに制作することができる。</p>		エ 布を用いた製作	布を用いた簡単な物の製作計画を考え、製作を工夫すること。	<p>型紙に合わせて裁断し、ミシンを使って作る簡単な小物や袋物の製作計画を考え、ミシンを使った製作を工夫している。</p>			
	オ 住居の基本的な機能と快適	<p>1段階の内容を踏まえ、家族の生活と住空間との関わりや住居の基本的な機能について理解することができる。</p> <p>家族の生活と住空間との関わりが分かり、住居の基本的な機能について理解すること。</p>		オ 住居の基本的な機能と快適	家族の安全や快適さを考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。	<p>家族の安全や快適さを考えた住空間の整え方について工夫している。</p>			

C 消費生活・環境

段階	段階の目標		指導事項		知識及び技能		調査項目		判定	段階の目標	指導事項		思考力、判断力、表現力等		調査項目	判定	活動例						
	ア	イ	ア	イ	ア	イ	ア	イ			ア	イ	ア	イ									
中1段階	家庭の中の自分の役割に気付き、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア	(ア)	生活に必要な物の選び方、買い方、計画的な使い方などについて知り、実践しようとする。	イ	(ア)	商店等で品物を購入する方法や、買物かこの扱い方、支払いや釣銭などの受け取りなど買物に係る一連の手順が分かる。			家庭生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝えるなど、日常生活において課題を解決する力の基礎を養う。	ア	(イ)	生活に必要な物を選んだり、物を大切に使うこと。	イ	(イ)	生活に必要な物を選んだり、物を大切に使うこと。		家族に頼まれた買物や自分が必要とする物を正しく選んでいる	○校内の模擬店での買い物学習 ○保護者に頼まれた品物を身近な商店で購入する活動 ○ゴミの分別活動				
																				ごみの種類や分別の仕方が分かる	ゴミが少なくなるように、物を無駄なく使っている。。		
																				空き缶やペットボトルの回収の役割が分かる。	身近な生活の中で、環境に配慮した物の使い方などについて考え、工夫すること。		
																				ごみの中には再利用できるものがあることを分かる。			
中2段階	家族や自分の役割について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア	(ア)	生活に必要な物の選択や扱い方について理解し、実践すること。	イ	(ア)	同じ物でも品質や価格などに違いがあることを知り、目的に合った物を選ぶことができる。			家庭生活に必要な事柄について考え、課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、日常生活において課題を解決する力を養う。	ア	(イ)	生活に必要な物について考えて選ぶことや、物を大切に使う工夫をすること。	イ	(イ)	購入する物について必要な物であるかどうかを考えている。	必要で適切な物を無駄なく選んでいる。	購入した物を使い切るまで消費しようとしている。	物を大切に使ったり、無駄なく使い切ったり、再利用したりするなどの工夫をしている。	電気の消灯や水の使用などエネルギーの無駄使いを防ごうとしている。	○買い物学習 ○リサイクル活動 ○電子マネーやプリペイドカードを使った活動		
																						予算を考えて購入することができる。	
																						家族の人数を考えて適切な数量を選ぶことができる。	
																						電子マネーやプリペイドカードなど現金以外の支払い方が分かる。	
中2段階	家族や自分の役割について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	イ	(ア)	身近な生活の中での環境との関わりや環境に配慮した物の使い方などについて理解し、実践すること。	イ	(イ)	自分や家族の生活が身近な環境に影響を与えていることが分かる。			身近な生活の中で、環境との関わりや環境に配慮した生活について考えて、物の使い方などを工夫すること。	ア	(イ)		イ	(イ)								
																					エコバッグを使うことでゴミを減らせることが分かる。		



段階	知識及び技能				思考力、判断力、表現力等				活動例					
	段階の目標	指導事項	調査項目	判定	段階の目標	指導事項	調査項目	判定						
家族・家庭の機能について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。	ア 消費生活	② 購入方法や支払方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性に気付くこと。	インターネットを介した通信販売等の無店舗販売について、利点と問題点に分かる。		ア 消費生活	① 物質・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、表現すること。	物質・サービスの購入についての課題を解決するために、知識及び技能を活用し、物質・サービスの購入方法について考え、表現している。		○買い物学習 ○クレジットカードの使い方についての学習 ○商品のパッケージ等の比較 ○工場の見学					
			前払い、即時払い、後払いといった支払い時期の違いによる特徴に分かる。				物質・サービスの購入についての課題を解決するために、知識及び技能を活用し、支払い方法について考え、表現している。							
			クレジットカードによる三者間契約について、二者間契約との違いや利点、問題点に分かる。											
			収支のバランスを図るために、生活に必要な物質・サービスの流れを把握し、多様な支払い方法に応じた計画的な金銭管理が必要であることが分かる。											
			収支のバランスが崩れた場合、物質・サービスが必要かどうかを判断し、必要な物の優先順位を考慮して調整する必要があることが分かる。											
			生活に必要な物質・サービスには、必需的な物(衣食住や、電気、ガス、水、交通などのライフライン)と選択的な物(娯楽や趣味)があるということが分かる。											
	イ 消費者の基本的な権利と責任	③ 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物質・サービスの選択に必要な情報の収集、整理ができること。	売買契約の仕組みが分かる。			イ 消費者の基本的な権利と責任	② 身近な消費生活について、自立した消費者として責任ある消費行動を考え、工夫すること。	身近な消費生活についての課題を解決するために、基礎的・基本的な知識を活用し、自立した消費者としての責任ある消費行動を考えている。						
			消費者被害の背景とその対応について分かる。											
			安全性、機能、価格、環境への配慮、アフターサービスや、品質表示、成分表示、各種マークを基に、広告やパンフレットから偏りなく情報を収集することができる。											
			物質・サービスの選択のための意思決定に必要な情報について、購入目的に応じた観点で適切に整理し、比較検討することができる。											
			集めた情報の信頼性を吟味する必要があることが分かる。											
			情報の収集・整理を適切に行うことが、消費者被害を未然に防いだり、購入後の満足感を高めたりすることが分かる。											
イ 消費者の基本的な権利と責任	④ 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について気付くこと。	消費者基本法の趣旨を踏まえて、消費者の基本的な権利と責任が分かる。		イ 消費者の基本的な権利と責任	③ 身近な消費生活について、自立した消費者として責任ある消費行動を考え、工夫すること。		身近な消費生活についての課題を解決するために、基礎的・基本的な知識を活用し、自立した消費者としての責任ある消費行動を考えている。							
		身近な消費生活の具体的な場面で、どのような権利と責任が関わっているのか分かる。												
		権利の行使には責任の遂行が伴うことが分かる。(権利の例:情報が与えられたり、自由に選んだりできる)(責任の例:情報を調べたり確かめたりして批判的な意識を持つ)												
		購入した物質・サービスに不具合があったり、被害にあったりした場合に、適切に主張し行動する責任を果たすことなどが消費者被害の拡大を防ぐことが分かる。												
		物質・サービスの購入から廃棄までの消費行動が、環境への負荷を軽減させることが分かる。												
		電気・ガス・水をはじめとする衣食住に関わる多くの物が限りある資源だと分かる。												
イ 消費者の基本的な権利と責任	⑤ 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。	資源の有効な活用には、消費行動が環境に与える影響を自覚し、環境の負荷を軽減させることについて、多くの人が長期にわたって取り組む必要があると分かる。			イ 消費者の基本的な権利と責任	④ 自立した消費者として責任ある消費行動を考え、工夫している。	物質・サービスの洗濯に必要な情報を活用して購入について考え、工夫している。							
		物質・サービスの購入から廃棄までの消費行動が、企業への働きかけとなって商品の改善につながる事が分かる。												
		品質や価格などの情報に疑問や関心をもったり、消費者の行動が社会に影響を与えていることを自覚したりして、よく考えて購入することが大切であると分かる。												
		1段階の内容を踏まえ、計画的な金銭管理の必要性が分かる。					ア 消費生活	① 購入方法や支払方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解すること。						
		1段階の内容を踏まえ、物質・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできる。							イ 消費者の基本的な権利と責任	② 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物質・サービスの選択に必要な情報の収集、整理が適切にできること。				
		1段階で学んだ内容を踏まえ、消費者の基本的な権利と責任について理解することができる。									イ 消費者の基本的な権利と責任	③ 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。		
1段階で学んだ内容を踏まえ、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響を理解することができる。		イ 消費者の基本的な権利と責任	④ 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。											
				イ 消費者の基本的な権利と責任		⑤ 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。								
													イ 消費者の基本的な権利と責任	⑤ 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。